

# 三河本苑だより

7月号

2021・7 No.470

(発行者)

大本三河本苑

〒443-0031

蒲郡市竹島町2-8-5

TEL 0533-69-7518

FAX 0533-69-1455

### 【聖師様の愛善の道】

かなながら神のまにまに何事も

つとめゆく身にあやまちはなし

今日もよし明日もまたよし何事も

神の心にまかす身なれば

5月16日・本苑春季大祭は、直前に緊急事態宣言が発令され参拝者なしの祭典となりましたので、本苑長挨拶、節分人型大祓宣教功労者、冠沓句奉納者を、改めて本誌にて全信徒の皆様へ紹介します。

## ■春季大祭

### 本苑長あいさつ

加藤 三樹

去る5月4日、5日本部で開催されました教主ご就任20周年慶祝教主生誕祭、みろく大祭、春季祖霊・万霊大祭は一般参拝者なしの祭典となり、インターネットライブ配信されました。ご覧になられましたでしょうか。

全国愛善歌奉納大会もオンライン奉納の形をとり、一人ひとり、または家族単位で基本宣伝歌を歌っている姿を並べた動画が放映されました。三河本苑からは22名の方が、事前に動画投稿してくれました。ありがとうございます。この春の大みまつりに、2冊の記念本が発行されました。1冊は、教主さまご就任20周年を記念して発行されました、教主さま初

となりますお作品集「出口紅作陶選集」です。もう一冊は、開教

120周年記念事業として発行されました「報身みろく神業」第3巻です。昨年発行されました第1巻、第2巻は三代教主、教主補さまのご足跡でしたが、第3巻は四代教主さまのご足跡です。是非、手に取ってご覧ください。なお、現教主さまのこの20年間のご足跡は、来年発行予定の第4巻に掲載されます。楽しみです。話は変わりますが、「みろくのよ」誌5月号に、教主さまがこの20年間で振り返りになられましたインタビュー記事が掲載されています。インタビューの最後に教主さまは、三代教主さまから始まりました報身みろく神業の道を、皆さんと「一緒に」「一緒に」を強調されていました。しっかりと踏み歩んで行きたいと決意をお示しになりました。

この報身みろく神業のあり方について、三代教主さまのお示しが「報身みろく神業の足跡」第1

巻に、次の様に掲載されています。「報身みろくの世の大本といふのは、それぞれが心のチリを祓って、和合し合せて、小さいながらもよい鑑を出させていたただくことです。」と。「小さいながらも良い鑑を出す」、まず「身近からの実践」を大切にしていきたいと思えます。

「身近からの実践」の型として、大本が推進しているのが「信仰即生活即芸術」です。三河本苑もこの一環として、春と秋の大祭に冠沓句奉納大会を開催しています。今回、33名の方が投稿してくれました。「信仰即生活即芸術」の「信仰即生活」として、大本のみ教えを日常生活の中で実践し、そして「生活即芸術」として、日常生活の中で歌、句を創作する。大本のみ教えを実践している日常生活の中で歌を作る「信仰即生活即作

歌を今回、実践してくれました。ありがとうございます。最後に、新しい神の家建設の進捗状況をお話しします。4月28日、亀山建設さんへ

材料の出荷検査に行ってきた。この10か月、使用する材料を乾燥させて養生していましたが、養生後の反りは全数、規格の半分以下に収まっており、建物完成後の寸法変化は全く心配ありません。また建付け後に見える柱の面は、節は一つもなく、木目、色目がきれいに揃っていました。いよいよ、柱が立ちます。楽しみです。上棟祭は7月24日を予定しています。祭典をどの様に執行していくか、現在、建設リーダーの河合次長が先方と検討しています。決まり次第、ご連絡いたします。なお、新しい神の家完成は来年4月末、外構を含めた全工事完了は来年8月末の予定です。今回は、愛善歌オンライン奉納への動画投稿のお礼、教主さまが進められている報身みろく神業のあり方、冠沓句奉納大会の開催意義と句投稿のお礼、そして神の家建設の進捗状況をお話しいたしました。本日は、ご参拝、誠にありがとうございました。

### 7月の行事

●18日(日)

本苑七月月次祭

●24日(土)

本苑上棟祭 11時より

●25日(日)

誠心会万祥殿献勞

●未定 (中止)

少年夏期学級 (中止)

●8月の行事 (中止)

●22日(日) に変更

本苑八月月次祭

●全体会議

●21日(土)～22日(日)

本部講師葬祭研修会 (中止)

## ■節分人型大祓宣教功労者

### みろく大祭の祭典後、

節分人型大祓宣教功労表彰者の紹介がありました。功労者の表彰は2種類あり、1つは「単年での体数表彰」、もう一つが「千体通算での回数表彰」です。今年「単年での体数表彰」の最高位は五千体以上で、「千体通算での回数表彰」の最高位は60回以上でした。何と、この2つの最高位が、共に全国で一人、三河本苑の方でした。

一人、三河本苑の方でした。

身近にご神業のお手本となられる方が見えることは、本当にありがたいことです。見習っていききたいと思えます。

令和三年大本三河本苑

### 春季大祭冠沓句奉納者

【冠題】 切実な 冬さりて 末代の沓題【沓題】 耳すます

【集句】 125句【抜句】 33句

【選者】 佐々木敏朗

愛善冠沓句の「おおもと」誌掲載に倣って、秀調以上の句とお名前を紹介します。

#### 【秀調】

幼子の会話は楽し耳すます

一色 牧 妙子

末代の孫子集える神の家

碧南 高木敏彦

冬さりて心の春はまだ遠し

梅園 高井郁代

コロナ禍の先を望みに耳すます

米津 横井一男

末代の平和一步の譲り合い

豊田 谷口靖代

切実な教主様(きみ)の御言葉熱く読み

井田 高木ハルミ

#### 【三光明】

人位 神書(みふみ)読み

神の言葉に耳すます

吉良 榊原さよ子

地位 末代の錦織りなす綾

の郷 高浜 三輪利子

天位 末代の和合に建てる神

の家 刈谷 加藤三樹

表彰されました皆様、おめでとうございました。みろく大祭でお名前の紹介がありました方のみ掲載します。

## 「人生100年時代に思う」

特任宣使 松永孝司

昨今、「人生100年時代」が話題になっている。私は人生80年を目標にして生きて来たが、人生の後半になり、ふたたび目標を変更する事態になった。若かりしときに立てた目標は、人生を三分割して、「学び」「子孫育成」「世に貢献」を目標に人生を過ごして来たが、突然20年も追加され、最後の目標である「世に貢献」を100歳まで継続できるか困惑している。過ぎた時代(学び、子孫育成)の追加であれば、若いとき遣り残したことに再挑戦することができるとは、老年になって突然の追加は、神さまもお人が悪い。

政府は支出の改善策を検討し厚生年金の減額となることであろう。老後の生活資金も底をつき、活動することは困難になってきた。

我々は、大本の信仰者として御神業活動を頂いている。これは有難いことで新しく活動目標を開拓する必要はなく、現在の生活を継承していけば良いのである。私は100歳までに17年という長い年月を過ごすことになる。健康面では大分無理をして過ごして来たので、身体のおちこちが悲鳴をあげている。私は医者嫌いで病院に行かない主義で、予防接種や定期検査など受けたことがない。具体的にどこがどう悪いのか分からない。

しかし、肉体的には退化現象が始め、朝夕にウォーキングを始めた。何回も休憩しながら歩いているが、息が切れるし足も上がらない。先ず肉体的鍛錬から始めねばならない。

政府は2017年秋に「人生100年時代構想会議」が設置されたが、何を成すにも準備時間(約10年)が必要で、もっと早い時期に情報を出して欲しかった。

年齢を重ねることに、親類縁者が減少し悩みを聞いてくれる援護者も少なくなり、孤独な人生を過ごすにはどうしたら良いか考えさせられる。生涯自力で人生を歩むことができる人達は良いが、すでに認知症や健康に障害ある方、また経済的に余裕のない方は、自力で100歳まで生活が出来ないことになる。家族や縁者、国・政府などの援助が必要になってくる。

個人レベルでも真剣に老後の過ごし方を考え直さねばなりません。社会全体の問題として、長寿社会の制度・仕組みを、国家や企業も含め改善対策を共に考えて実施することが望みたい。

人生100年時代に対応して、年齢を重ねてからの「学び直し」も重要となる。また、定年退職制を含め、現状の日本の企業社会は欧米諸国と比べると柔軟性に欠けている。「変化への対応力」がある人とならない人は、今後の人生が大きく変わる

ことが予想される。日本人の労働習慣である長時間労働を前提とし、男性一人が家族を養う社会情勢ではなく、家族が人生を通じて共に働くなど一層の変革が必要となる。

戦前は大家族制度が常識であったが、戦後日本は生活様式が「核家族」に変わり、これは老後の生活に非常に問題を残すことになった。約300坪の敷地に「子供たちの家、親たちの家、祖父たちの家」を三軒建て、老人は老人に適した住まいで生活する様式が望ましい。これが実現していれば、老人介護は家族で対処することも可能となる。

現在は一極集中体制で世の中は進んでいるが、地方の自主体制も考慮した改善策が望まれる。親子の繋がり、日本の素晴らしい縄文時代の生活・人生観を思い起こさねばならない。

最後に、人生を通じて趣味(2〜3種類)を「一人で出来るもの、友と仲良くできるもの」などを持つことが重要である。人生100年時代は「健康に勝るものはなし」を目標に過ごしたいものである。

【5千体以上】 米津支部 横井一男 米津支部 横井良男

【千体連続60回以上】 米津支部 横井良男